

問 1.

(解答例) 228文字

化石の島と呼ばれる獅子島は、雲仙天草国立公園に加えられている。この島には恐竜時代の地層が分布し、アンモナイト、イノセラムス、三角貝などの化石の他に魚竜の化石も見つかっている。恐竜の時代の地層は、甕島国立公園に指定された下甕島にも分布し、鹿島から恐竜の肋骨や歯の化石が発見された。海岸からそそり立つ鹿島断崖に露出する地層も恐竜化石が発見された地層と同じである。甕島の3つの島は、令和2年8月に完成予定の甕大橋によってつながり、多くの観光客の来島が期待される。(具体的な地層名でも良い)

問 2.

(解答例) 208文字

薩英戦争でヨーロッパの力を知った薩摩藩は、近代技術・知識習得のため、五代友厚らの視察員と留学生を密かに英国に派遣した。五代友厚が薩摩藩に建言し、小松帯刀らの尽力によって実現した派遣団は、鹿児島中央駅にある「若き薩摩の群像」として顕彰され、今年、薩摩藩外出身の2人の像が新たに加わり、19名となる。

小松帯刀は、大政奉還について、他藩に先駆けて賛同し署名を行うとともに、徳川慶喜に勧告する等、新政府の発足に向けて尽力した。

問 3.

(解答例) 208文字

店頭で鹿児島黒豚と表示できるのは、鼻先と尻尾さらに4本の足首が白いわゆる六白のバークシャー種の肉だけ。見た目は黒豚でも交雑種は除外される。肉用牛のうち黒毛和種の飼養頭数で鹿児島は全国トップ、第11回全国和牛能力共進会では総合優勝(日本一)を遂げている。県が薩摩鶏を土台に他品種と交配を重ねて改良した三代目が黒さつま鶏だ。黄斑プリマスロックとの交配種で、適度な噛み応えと歯切れの良さ、脂の乗りがセールスポイントである。

問 4.

(解答例) 215文字

鹿児島県の総人口は戦後一貫して増加し、昭和30年に204万人の史上最高を記録した。しかし、高度経済成長期に入ると減少を続け、昭和47年には170万人まで落ち込んだ。その後増加に転じ、昭和60年には182万人まで回復したが、翌年には再び減少に転じ、その後は一貫して減少傾向が続いており、現在の総人口は160万人となっている。人口減少の要因は、少子高齢化の進行による自然減と若年層の就職・進学による県外への転出が主なものとなっている。

問 5. 南薩地域に関して次の問いに答えなさい。

(解答例) 【1】

南薩地域は、県本土の西南部に位置し、枕崎市、指宿市、①南さつま市、②南九州市の4つからなる。

この地域の地質は③火山灰コラ層のため保水性に乏しく、以前は農業生産性は極めて低い地域だったが、④池田湖の水を利用する南薩畑地かんがい事業により、今では生産性の高い近代的な農業が確立されている。

また、県下でも有数の園芸作物地帯であり、花き類の生産も盛んで、⑤温泉熱を利用した観葉植物は、全国有数の産地となっている。

(解答例) 【2】 238文字

指宿市は薩摩半島の南端に位置し、平成18年に旧指宿市、山川町、開聞町と合併して誕生した。世界で唯一の天然砂むし温泉は、海岸に自然湧出する豊富な温泉を利用している。様々な疾患への有効性も実証されており、全身美容の為に若い女性の利用も多い。

ハワイのダイヤモンドヘッドに似ているとされる魚見岳山頂からは、錦江湾や桜島等が展望できる。

開聞岳は、薩摩富士とも呼ばれ、洋上からよく見えるので、古くから往来する船人たちの守り神となり、太平洋戦争では特攻隊員たちのサヨナラの峰にもなっていた。